

第4回 高知県1漁協の将来像を考える委員会 議事概要

■ 日 時 平成30年5月30日（水） 13時～15時00分

■ 場 所 高知共済会館「四万十」

■ 欠席委員 志磨村委員、崎山委員

■ 報告事項 ① 鳥取県漁業協同組合について

■ 議 題 ① ハード整備の在り方について

② 組織体制、人事の在り方について

■ 議事概要

◇ 報告事項：事務局から鳥取県漁協の概要を報告。鳥取県漁協を視察することとなる。

※ 鳥取県漁協への視察は、台風の接近に伴い中止となる。

◇ 議題 ①：各委員の意見・議論の概要は以下のとおり

・三津、椎名、高岡の市場集約は、意義やメリットを十分に説明しないとハードルが高い。（弘田委員）

➤ 県としても丁寧に説明していきたい。（谷脇部長）

・拠点市場の震災への対策等は何かあるか？（西内委員）

➤ より高いレベルのBCPを作成しようと検討しているところ。（谷脇部長）

・市場集約は漁業者のために行うものということを上手に伝えないといけない（泥谷委員）

・中芸の市場はどうなるのか？（木下委員）

➤ 加領郷に集約することとし、奈半利は陸送の中での役割を担うことで前回の委員会で示している。（竹内副部長）

・すくも湾は既に1ヶ所に市場を集約したが、当初は大変だった。今は価格も上がって、他地区から持ってくる場合もある。示されている計画のハードルは高いが、今からしっかり考えていかなければならない。（浦尻委員）

・三津、椎名、高岡の集約は困難であるが、施設の老朽化を考えると、急がなければならない。室戸と室戸岬に関しては、少しずつ話を進めている。高知新港に関しては、沖底の水揚げや、パッチ網の操業区域の兼ね合いもあり、難しいかもしれない。（澳本副会長）

➤ 高知新港に関しては、加工業者を多く集めて浜値を上げようと言うことと、水揚げ時の衛生管理を確保しようという狙いがある。それと、すでに整備が進んでいる田ノ浦や清水では、水揚げや荷捌きの効率化をパイロット的に行ってはどうかとも考えている。（宮本副部長）

・赤岡、吉川では何度か話をしたが、加工業者が難色を示すこともあった。ただ、漁業者も職員も減っており、何とか集約には向かっていきたい。（澳本副会長）

・椎名、三津、高岡の集約に関しては、やはりメリットをしっかり示していかないといけない。それと、陸送にするか、直接水揚にするかも、地元が納得できるよう検討しないといけない。

(弘田委員)

➤ 陸送も選択肢の一つにはあるが、それぞれの市場を建て替えたときにどれだけの費用がかかるのかも含めて検討しないといけない。(竹内副部長)

・結論として、ハード整備の在り方の方向性は資料2に記載のとおりとなる。

◇ 議題 ②：各委員の意見・議論の概要は以下のとおり

・10年間に8回の不祥事は大変なこと。人事は本所で管理するような体制に持って行くべきと思う。(弘田委員)

・すくも湾は、当初は反発もあったが、人事異動を積極的に行っている。人事の評価も行っており、若手職員のやる気も上がっている。(浦尻委員)

・所帯が大きくなると大変と思うが、バランスを取って行うことが大切。(西内委員)

・やはり人材が一番大切なので、低い給与体系を変えていかないといけない。人事評価等も資料に書かれていることが基本だと思う。(泥谷委員)

・奈半利は給与を役場の職員並みにしている。他よりは良いと思う。(木下委員)

・県漁協は繰越欠損金の解消を第一に考えてきたので、職員の給与を十分に上げられなかった面もある。それと、言い訳になるが、人事異動も諸々の事情があって厳しい面もある。(澳本組合長)

➤ 県としても研修等の面でバックアップすることを考えている。(谷脇部長)

・結論として、組織体制、人事の在り方の方向性は資料3に記載のとおりとなる。